
無限ループの抜け出し方

オタマジャクシ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

無限ループの抜け出し方

【Nコード】

N6302Z

【作者名】

オタマジャクシ

【あらすじ】

無限ループな夢を終わらせるために。

夢が覚めたと思ったら、それもまた夢。その夢から起きてもまた夢。

終わりが無い夢。しかも、全て12月24日で、ぼくの親友が死ぬ夢だ。内容を変えれば終わるだろうか、時間をずらしたけども、彼女は絶対死ぬんだ。絶対に時間をずらしたのに……夢は変わらなかった。

どうすればこの夢は終わるんだろう？ この夢はどうして終わらないんだろうか？彼女が死ぬ夢なんて見たくない。これ以上見たら、泣き狂ってしまいそうだ。

どうすれば終わるかを、始まる夢の前に考える。考えて考えて、やっと思いついた。

「そうだ、これは夢なんだ……だから、認めればいい」
「ん？」

「あ、いや、何でもないよ」
「そう？」

ならいいけど、と言って小走りで曲がり角まで走って行く彼女を見て、心を構える。彼女が曲がり角に着く。

「おーい、どうしたのー？」

「あ、今行くー！」

ぼくは彼女の方へ走った。

「危ない！」

彼女の所にもう少しで着く、というところで、上から焦ったよいうな声がして、彼女が上を向く。ぼくは目を瞑った。

数秒後、ゴツという鈍い音がした。そのあとに、甲高い女の人の

悲鳴。目を開けると、頭から血を流した彼女と、割れた鉢植えが目に入った。彼女は目を見開いて死んでいた。

「……ごめん」

ぼくは震える声でそう呟いてから、泣き叫んだ。

朝起きると、デジタル時計は12月25日の7:00くらいをさしていた。どうやら正解だったらしい。

さて、現実の彼女に会いに行こうか。

（後書き）

一応解説すると、「彼女」はすでに死んでいます。

この話での「夢」は、「ぼく」の彼女が死んだというのを信じない、という気持ちから繰り返される幻の夢です。無限ループです。

途中で、この無限ループを解くには、「彼女が死んだ」ということを認めなければいけないと、「ぼく」は気付きます。

「ぼく」は、彼女が死んだという事実を夢の中受け入れた↓無限ループ解けた↓しかし彼女は死んだ〓現実の彼女はいない。

……みたいな感じなんですけど、よく説明できない。

おわり。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6302z/>

無限ループの抜け出し方

2011年12月21日01時50分発行